

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2015年10月）

目 次

内 政

◆政党支持率調査結果	2
------------	---

外 政

◆ライチャーク外相の国連総会一般討論演説	2
◆フィツォ首相のキューバ訪問	2
◆V4＋クロアチア首脳会合	3
◆潘基文国連事務総長のスロバキア訪問	3
◆ライチャーク外相のウルグアイ及びペルー訪問	3

社 会

◆ごみの分別処理の現状	3
-------------	---

経 済

◆フォルクスワーゲン不正問題のスロバキアへの影響	4
◆スロブナフトのスロバキア電力株式買収からの撤退	4
◆コシツェ市におけるIT産業の拡大	4
◆スロバキア中央銀行月報（10月）	5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆政党支持率調査結果（20日）

世論調査機関Focusが政党支持率調査の結果を公表した。国会総選挙が来年3月に予定される中、Smerは予想議席数が76となって過半数を越え、再び単独政権を成立させることも可能となった（国会議席数は150）。OLaNOとNovaの選挙連合は6.7%で、2党の選挙連合の議席獲得に必要な7%（通常は5%）に達しなかった。

政党	支持率	予想議席数
Smer（方向）	39.1%	76
Siet（ネットワーク）	12.6%	24
Most-Hid（架け橋）	7.3%	14
KDH（キリスト教民主運動）	7.1%	14
OLaNO（普通の人々・独立した人達）	6.7%	0
SNS（スロバキア国民党）	6.1%	12
SaS（自由と連帯）	5.2%	10

外 政

◆ライチャーク外相の国連総会一般討論演説（1日）

ライチャーク外相は第70回国連総会一般討論演説において、国際社会によるあらゆる国際的な課題への対応を可能とするための国際連合の強化と効率化を支援することを明言した。ライチャーク外相によると、国連の強化は世界の平和、発展、平等及び公正に対する人々の普遍的願望を満たすための最良の投資である。また、同外相は、「我々は、現在のシステムがその本来の役割を果たすことができるように実際的な仕組みを追求していく必要がある。そのようにして国連は、現在と将来の課題がもたらす困難や要求に応えることが可能となる」と述べた。

◆フィツォ首相のキューバ訪問（8日）

フィツォ首相とカブリサス・キューバ閣僚評議会副議長の会談では、キューバ及びスロバキアのエネルギー関連企業による総額1億ユーロに上るエネルギー・プロジェクト実施に関する協定への署名が行われた。カブリサス副議長は、現在キューバにおいて進められているキューバの更なる開放と民間部門の確立に向けた変革について説明した。フィツォ首相は同副議長にスロバキア訪問を招請した。フィツォ首相とカストロ・キューバ閣僚評議会議長との会談において、同議長はスロバキアの体制移行期の経験に関心を示すと共に、カブリサス副議長のスロバキア訪問を了承した。

◆V4＋クロアチア首脳会合（8－9日）

キスカ大統領は、ハンガリーで行われた「V4＋クロアチア」サミットに出席した。各国首脳は「ノルド・ストリーム2」プロジェクトがビジネスではなく、政治的決定であるという認識で合意した。移民問題についても取り上げられ、キスカ大統領は、「我々は、安全保障や経済問題について議論し、危機の生じている国々の状況を改善し、国境を管理していく必要があるという見解を共有している。個々の問題に対処していくことが各国政府の役割である」と述べた。また、欧州各国との関係について、キスカ大統領は、再び欧州が東と西に分かれることがないように連帯を表明することが重要であると考えている。

◆潘基文国連事務総長のスロバキア訪問（18－20日）

キスカ大統領と潘基文事務総長との会談では、気候変動、持続可能な開発、移民問題、国連の重要課題である治安部門改革進展におけるスロバキアの役割等、国連が重視する問題を協議した。ライチャーク外務・欧州問題相との会談では、国連と加盟国の利益に関わるテロ対策、移民問題、持続可能な開発、気候変動及び平和維持活動が取り上げられた。また、ライチャーク外相は、スロバキアから国連に対する260万ユーロの自発的な財政拠出を明らかにした。潘事務総長は、財政的貢献に加えて、治安部門改革におけるスロバキアの活発な役割を評価した。潘事務総長は、ペレグリニ国会議長及びフィツォ首相とも個別に会談を行った。

◆ライチャーク外相のウルグアイ及びペルー訪問（27－28日）

27日、ライチャーク外相はセンディック・ウルグアイ副大統領との会談後、「両国は国の規模だけでなく、グローバルな課題に対する原則や立場においても類似していることから、両国間の交流は理に適っている」と述べた。また、同外相は、教育、科学及びイノベーション分野においてもウルグアイとの協力深化に関心を有していることを強調した。28日、ライチャーク外相はサンチェス・ペルー外相と共に、より高い水準の協力の推進を可能とするための政府間の改正議定書に署名した。ライチャーク外相は、「両国間には懸案もなく、伝統的に良好な関係を保っている。我々はペルーを意見と立場を共有するパートナーとして認識しており、両国間協力の発展を確信している」と述べた。

社 会

◆ごみの分別処理の現状（21日付スメ紙）

スロバキアは欧州において最もごみの分別の行われていない国の1つである。年間の家庭ごみの平均は約232キログラムであるが、分別している量は26

キログラムのみである。分別の意識が最も高いのはジリナ県とトゥルナヴァ県であり、コシツェ県とブラチスラバ県が最も低くなっている。また、若い世代と教育水準の高い人々がより分別を行っている。2020年までのEUの目標に沿って、スロバキアはごみの回収率を高める必要があり、ガラスびんを2%、プラスチックを140%、再生紙を236%、それぞれ向上させる必要がある。

経 済

◆フォルクスワーゲン不正問題のスロバキアへの影響（7日付プラウダ紙）

フォルクスワーゲン・スロバキア工場のマハリーク氏は、VWの不正問題発覚後も生産体制に変わりがないことを強調した。プジョー・シトロエン（PSA）及び起亜は欧州における自家用車販売増の波に乗っており、PSAのシュヴェツ氏は、「今年の25万6000台を上回る約30万台の製造を見込んでいる」と述べた。また、起亜のフラードク氏は、「市場の急激な落ち込みがなければ、今年の32万3000台を越える33万台を製造する」と述べた。PSA及び起亜が計画を達成し、VWスロバキアが今年の生産台数39万4000台を製造した場合、国内全体の生産台数は約102万4000台となる。

◆スロブナフトのスロバキア電力株式買収からの撤退（20日付プラウダ紙）

スロブナフト社（ハンガリー・ガス会社傘下）は、伊Enel社傘下のスロバキア電力会社株式66%の買収を巡る競争から撤退する。同社と国営ハンガリー電力（MVM）のコンソーシアムは株式買収への関心を示し、モホウツェ原発3号基及び4号基の増設についても、原子力分野でのMVMの経験に基づいて、財政的、専門的な参画を目指していた。しかし、スロブナフト社のヴィラーギ会長は、より慎重な現状分析を受けて、モホウツェ増設工事には経済的リスクが伴うと判断した。

◆コシツェ市におけるIT産業の拡大（28日付経済新聞）

2006年には新規雇用の見込みが1000人分に過ぎなかったコシツェのIT部門は、現在、7000人を雇用している。今後2、3年で、更に1000人分の雇用が創出される。T-Systems Slovakiaのレショウスキー副社長は、「全体で1万人の雇用となる可能性がある。コシツェはビジネス環境の良さから、投資家にとって魅力的な地域となっている」と指摘する。SAP Slovakiaとシャファーリク大学等の協働プロジェクトは新たなIT専門家を育成している。同大学自然科学部のセマニシン学部長は、「IT企業等との協働は、学生に教育上の具体的な便益を提供する」と述べた。

◆スロバキア中央銀行月報（10月）

1. GDP

スロバキアの経済動向は、8月には、大企業において同月に夏季休暇を取る割合が高かったことが大きく影響し、非常に好調であった7月の指標からの若干の調整が見られた。経済全体の売り上げの伸びは、主として国内の商業、特に卸売部門の影響により、前期比で7月の1.7%から8月には1.4%とわずかに鈍化した。8月の鉱工業生産の伸びも前期比で7月の0.7%から0.4%に鈍化した。第3四半期のGDP成長にとって、特に夏季休暇後の自動車産業の稼働状況を示すことになる9月の動向が重要となる。過去数ヶ月における鉱工業の生産能力の比較的安定した活用を踏まえ、休暇期間後の9月には鉱工業の伸びの回復が見込まれる。

2. 雇用率及び賃金

8月の特定部門の雇用率は、前年同期比で1.7%増、前月比で0.1%増となり、上昇基調が継続した。過去12ヶ月では、サービス部門が最大の伸びを示し、鉱工業部門もそれに続いている。9月の季節調整前の登録ベースでの失業率は前月比でわずかに0.07%上昇して11.38%となった。8月の平均賃金は、前年同期比で3.5%増と加速した。賃金上昇の加速は民間セクターの大多数の部門で見られ、最も顕著なのは建設部門である。鉱工業、商業、サービス部門でも前年同期比3%増と賃金の伸びが若干加速した。8月の平均名目賃金は823.4ユーロであった。

3. 物価

9月の消費者物価指数は、前年同期比0.5%減と、主に予想される家庭向けガス料金の値下げに影響された歴史的な低水準となっている。インフレ構造全体で見ると、エネルギー価格が前年同期比での下落の加速に最も影響を及ぼした。9月の物価は前月比0.3%減となった。特に、原油価格下落の影響も受けているガス価格と燃料価格が下落した。未加工食品の価格が前月比で上昇した食料品において、インフレのわずかな加速が見られた。

4. 貿易

8月の鉱工業生産の若干の減速は輸出の伸びの鈍化にも影響を及ぼし、特に自動車産業において顕著であった。前年同期比では、8月の輸出は5.6%増、輸入は8.4%増となった。8月は2300万ユーロの貿易赤字となった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

